



2022年度 第3四半期  
9M FY2022

# 決算概要



Enhancing planetary health

2023年2月10日  
日揮ホールディングス株式会社

グループ財務部長の田口です。

これから、2022年度第3四半期の決算概要を説明させていただきます。

# CONTENTS

## 目次

- ハイライト
- 連結損益計算書
- セグメント情報
- 連結貸借対照表
- 受注の状況（総合エンジニアリング事業）
- 2022年度の業績見通し

(参考資料)

- 2022年度 セグメント別 業績見通し
- 地域別売上高、受注高
- 業績推移



## ハイライト

- 主要プロジェクトが順調に進捗
- 円高影響により売上高の伸びは鈍化
- 受注は通期目標に向け着実な積み上がり

最初に第3四半期のハイライトです。

総合エンジニアリング事業で主要プロジェクトが順調に進捗しています。海外では石油・ガス関係、国内ではクリーンエネルギー関係の完成工事高が伸びています。

円高影響により売上高の伸びは鈍化しました。円安が進んでいた上期の上振れがこの第3四半期で調整される形となっています。

受注は通期目標に向けて着実に積み上がっています。大型のものとしては、先月発表したマレーシアのフローティングLNG案件の受注を計上しました。

## 連結損益計算書

	9M FY2021	9M FY2022	【億円】 前年同期比
売上高	3,194	<b>4,166</b>	+971
売上総利益	311	<b>450</b>	+139
利益率	9.7%	<b>10.8%</b>	+1.1pt
営業利益	153	<b>253</b>	+99
経常利益	198	<b>334</b>	+136
親会社株主に帰属する 四半期純利益・純損失	△ 443	<b>225</b>	+669

次に連結損益計算書です。

総合エンジニアリング事業がけん引する形で前年同期比増収増益となりました。

12月末のドル円が132円70銭と9月末の144円81銭から12円の円高でしたので、売上高の伸びが抑えられたほか、営業外の為替差益が前四半期に比べ大きく減少しました。

最終損益は、前年同期の係争関連の特別損失がなくなり最終黒字となりました。

## セグメント情報

		【億円】			
		9M FY2021 (※)	9M FY2022	前年同期比	
総合エンジニアリング	売上高	2,853	<b>3,778</b>	+925	+32%
	セグメント利益	135	<b>228</b>	+92	+68%
機能材製造	売上高	328	<b>360</b>	+31	+10%
	セグメント利益	57	<b>59</b>	+2	+4%
その他	売上高	12	<b>27</b>	+14	+113%
	セグメント利益	△ 1	<b>6</b>	+7	-
調整額	セグメント利益	△ 37	<b>△ 40</b>	△ 2	-
合計 (連結)	売上高	3,194	<b>4,166</b>	+971	+30%
	セグメント利益	153	<b>253</b>	+99	+65%

(※) 第1四半期連結会計期間より、業績管理方法を変更したことに伴い、従来各セグメントに配分していた当社のグループ管理運営費用は、各セグメントに配分しない全社費用として「調整額」に含めております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。

次にセグメント情報です。

前年同期比で増収増益です。

総合エンジニアリング事業では、国内外のプロジェクトが順調に進捗し売上・利益ともに大きく伸びました。

特にセグメント利益では、今期完工した案件や完工が近い案件での採算改善があり、増益幅は大きくなっています。

主な進行中案件としては、海外ではカナダのLNG、モザンビークのフローティングLNG、中東の石油・ガス関係、国内ではバイオマス発電等のクリーンエネルギー関係、製薬工場などです。

機能材製造事業では、原料や燃料の価格高騰の影響を受けながらも、触媒関連をはじめとして堅調な需要を背景とした受注・販売に支えられ、いまのところ売上・利益ともに前期を上回る水準で推移しています。

## 連結貸借対照表

	【億円】		
	2022年3月末	2022年12月末	増減
流動資産	5,333	<b>5,393</b>	+59
固定資産	1,609	<b>1,760</b>	+151
総資産	6,942	<b>7,153</b>	+211
	2022年3月末	2022年12月末	増減
流動負債	2,538	<b>2,558</b>	+20
固定負債	527	<b>456</b>	△ 71
純資産	3,876	<b>4,139</b>	+262
JVキャッシュ 当社持分	2,396	<b>2,069</b>	△ 327

次に連結貸借対照表です。

財政状態に大きな変動はありません。

総資産が211億円、純資産が262億円それぞれ増加し、自己資本比率は57.8%となりました。

## 受注の状況（総合エンジニアリング事業）

### i) 受注高

	9M FY2021	9M FY2022	【億円】 FY2022 通期予想
海外	253	5,667 <sup>(※)</sup>	6,700
国内	1,316	1,028	1,700
合計	1,569	6,696	8,400

9M FY2022  
主要受注案件

原油・ガス分離設備(サウジアラビア)  
VCM・PVC生産能力増強工事(タイ)  
ニアショアFLNGプラント(マレーシア)

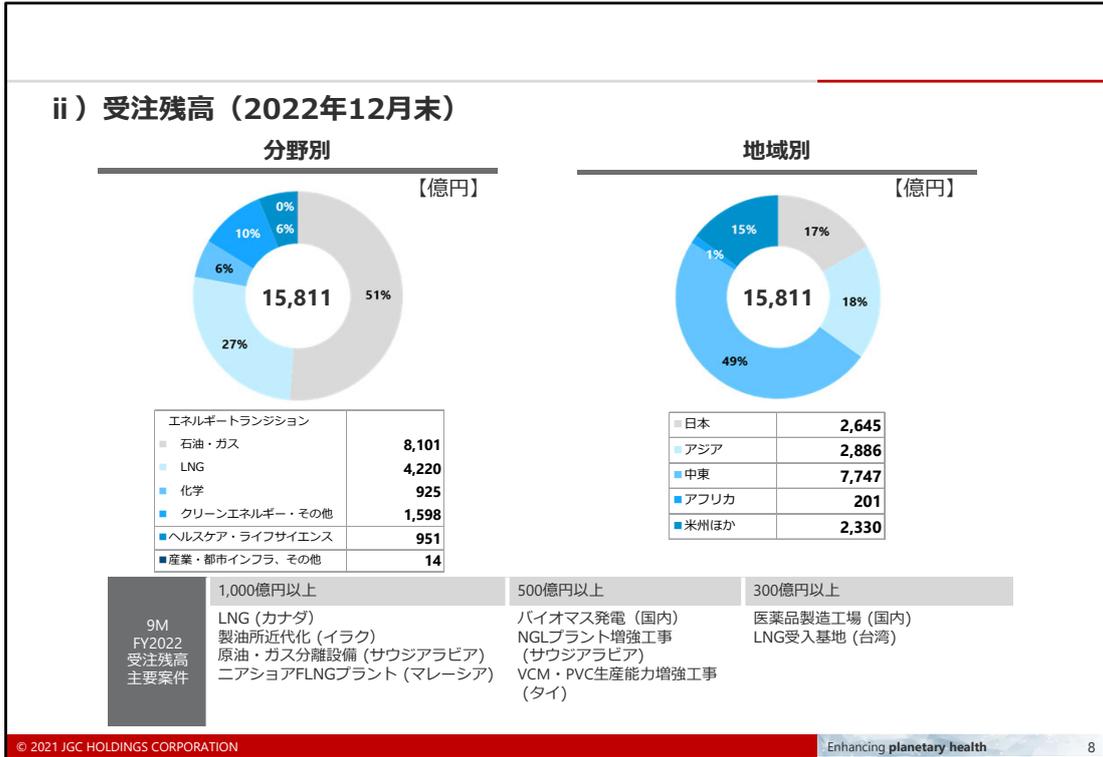
(※) JGCアメリカ社が11月に受注した大型エチレン製造プラントは含んでいない。

次に総合エンジニアリング事業の受注の状況です。

通期予想に向けて順調に積み上がってきました。

第3四半期の主なものは、マレーシアのニアショアFLNGプラントです。

11月に受注を発表した米国の大型エチレン製造プラントは第4四半期に計上予定です。



次に受注残高です。

第3四半期は円高による換算影響もあり、前四半期末から横ばいの1兆5,811億円となりました。

マレーシアの大型案件が入りましたので、分野別ではLNGが27%、地域別ではアジアが18%に前四半期末に比べそれぞれ割合が増加しました。

## 2022年度の業績見通し

通期業績予想を変更しております。

	前回発表 (2022年11月)	修正後	増減		【億円】	
					9M FY2022 実績	進捗率
受注高(※1)	8,400	<b>8,400</b>	-	-	6,696	80%
売上高	6,300	<b>6,000</b>	△ 300	△ 5%	4,166	69%
売上総利益	620	<b>620</b>	-	-	450	73%
利益率	9.8%	<b>10.3%</b>	+0.5pt		10.8%	
営業利益	340	<b>340</b>	-	-	253	74%
経常利益	460	<b>460</b>	-	-	334	73%
親会社株主に帰属する 当期純利益	300	<b>300</b>	-	-	225	75%
1株当たり配当金	36.0円	<b>36.0円</b>	-			
換算レート(米ドル)	140円	<b>130円(※2)</b>	△ 10円			

(※1) 総合エンジニアリング事業

(※2) 2023年1月以降の想定レート

最後に通期の業績見通しです。

売上高の通期予想を300億円減の6,000億円に変更しております。

前回予想ではドル円の想定を140円としていましたが、第3四半期末が132円となり、第4四半期想定を130円に変更した結果を反映しました。粗利益以下の利益は据え置きました。

これまでの採算改善により今四半期までの進捗が順調に75%前後に達しています。

また、円安のプラス影響はなくなるものの、更なるコスト削減努力や着実な工事遂行により前回予想を達成できると予想しています。

最後に、本日発表した自己株式の取得について補足させていただきます。当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、株主還元方針を公表しております。その中で、自己株式の取得については、業績見通し及びキャッシュ・フローの状況を勘案して適宜実施を検討する、としております。この方針に沿って、社内で慎重に検討を進めてまいりました。

業績面では、第3四半期まで、手持案件の順調な遂行が確認できており、受注も着実に積み上がってきています。

キャッシュ・フローの状況としては、過年度に終了したプロジェクトでまとまった資金回収があったことで営業キャッシュ・フローが上振れる見通しとなりました。

これらを含む当社グループの状況を踏まえ、株主還元の充実を目的に200億円の自己株式の取得枠を設定することといたしました。

また、その取得方法については、短期間で確実に取得出来る可能性の高い方法としてコミットメント型自己株式取得によることとしております。

取得結果については週明け月曜日に公表予定です。

以上で決算概要説明を終わります。

# 参考資料

## 参考（2022年度 セグメント別 業績見通し）

通期業績予想を変更しております。

【億円】

		前回発表 (2022年11月)	修正後	増減	
総合エンジニアリング	売上高	5,750	<b>5,450</b>	△ 300	△ 5%
	セグメント利益	327	<b>327</b>	-	-
機能材製造	売上高	470	<b>470</b>	-	-
	セグメント利益	65	<b>65</b>	-	-
その他	売上高	80	<b>80</b>	-	-
	セグメント利益	14	<b>14</b>	-	-
調整額	セグメント利益	△ 66	<b>△ 66</b>	-	-
合計 (連結)	売上高	6,300	<b>6,000</b>	△ 300	△ 5%
	セグメント利益	340	<b>340</b>	-	-

## 参考（地域別売上高、受注高）

### 売上高

【億円】

	9M FY2021		9M FY2022	
日本	998	(31.3%)	<b>1,103</b>	(26.5%)
アジア	310	(9.7%)	<b>427</b>	(10.3%)
中東	316	(9.9%)	<b>941</b>	(22.6%)
アフリカ	473	(14.8%)	<b>276</b>	(6.6%)
米州ほか	1,095	(34.3%)	<b>1,416</b>	(34.0%)
合計	3,194	(100.0%)	<b>4,166</b>	(100.0%)

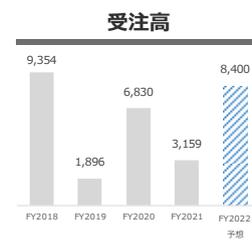
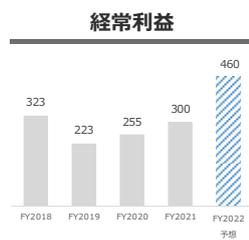
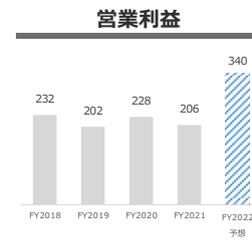
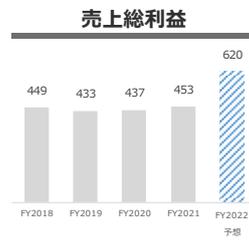
### 受注高（総合エンジニアリング事業）

【億円】

	9M FY2021		9M FY2022	
日本	1,316	(83.8%)	<b>1,028</b>	(15.4%)
アジア	103	(6.6%)	<b>2,419</b>	(36.1%)
中東	4	(0.3%)	<b>3,075</b>	(45.9%)
アフリカ	12	(0.8%)	<b>94</b>	(1.4%)
米州ほか	132	(8.5%)	<b>78</b>	(1.2%)
合計	1,569	(100.0%)	<b>6,696</b>	(100.0%)

## 参考（業績推移）

【億円】



## 将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞  
日揮ホールディングス株式会社  
グループ経営企画・推進部  
コーポレートコミュニケーショングループ  
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112  
E-mail: ir@jgc.com